

**第2次南アルプス市総合計画  
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日: 令和 4年 7月21日

更新日: 令和 4年 9月15日

政策No.	2	政策名	ともに生き支えあうまちの形成	施策主管課	健康増進課
施策No.	16	施策名	健康づくりの推進	施策主管課長名	齊藤 美穂
施策関連課名			国保年金課		

**1 施策の目的と指標**

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	市民	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	A 人口 B C	単位 人
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	心身ともに健康に暮らす	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	① 健康づくりをしている市民の割合 ② 特定健診受診率 ③ 生活習慣病罹患患者割合 ④ 「幸せ実感！南アルプス健康リーグ」を知っている市民の割合	単位 % % % %
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	① 健康づくりの実践率を示す/市民が日頃から健康であることを意識し、そのために自ら健康づくりをすることは、心身ともに健康に暮らすことにつながるため、成果指標とした。 ② 生活習慣病予防への市民の関心度を示す/特定健診を受診することで疾病の予防や早期発見ができ、健診後の適切な指導により健康な生活を送れるようになるため、成果指標とした。 ③ 生活習慣病罹患の状況を示す/健康に意識して過ごしていれば、生活習慣病が抑制されるため、成果指標とした。 ④ 健康リーグの認知率を示す/健康リーグが浸透することは、健康づくりを意識していることにつながるため成果指標とした。			
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	① 市民アンケート「日常的に健康づくりをしていますか」において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合 ② 特定健診受診者数÷特定健診対象数(国民健康保険に加入している40歳～74歳)×100 ③ 国民健康保険加入者の生活習慣病罹患患者数÷国民健康保険加入者数×100 ④ 市民アンケート「幸せ実感！南アルプス健康リーグをご存じですか」において、「知っている」と回答した人の割合			

**2 指標等の推移**

指標名	単位	数値区分	前期基本計画				後期基本計画						
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
対象指標 A 人口	人	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430	
		実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395				
		見込み値											
		実績値											
成果指標 ① 健康づくりをしている市民の割合	%	目標値	-	-	-	-	-	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0	
		実績値	-	-	-	53.3	52.8	57.5	52.5				
		目標値	54.4	57.2	60.6	60.6	60.6	57.4	58.7	59.8	60.6	60.6	
		実績値	53.0	54.2	55.1	55.7	57.4	55.0	52.7(暫定値)				
		目標値	-	-	-	-	-	38.3	38.3	38.3	38.3	38.3	
		実績値	36.1	37.0	37.9	38.3	38.9	38.6	40.2				
		目標値	-	-	-	-	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	
		実績値	-	-	-	8.8	12.3	13.6	12.3				

**目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)**

- 市民アンケートの新規設問であり、過去の実績値がないため成り行きはほぼ横ばい(55%程度)と想定し、目標値は、令和6年度には成り行き値より5ポイント高い60.0%に設定した。
- 第3次特定健診等実施計画と同様、60.0%以上が目標であるためR5年度の目標値を維持した60.6%とした。
- 過去の実績では割合が上昇傾向であり、成り行きでは上昇を続けるものと考えられるが、目標値は生活習慣病患者割合が増加しないことを目指し、現況値(平成30年度・38.3%)を維持することとした。
- 健康わくわくウォーク参加申し込み者が人口の1%いることで、ロコミで毎年1%ずつ広がるかと推定した。

**3 施策の役割分担**

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診を受診し、自身の健康づくりに積極的に取り組む。</li> <li>・健診の結果、課題があれば早期に受診し、状況が悪化しないよう生活習慣を改める。また、必要に応じて治療を受け状況を改善するように努める。</li> <li>・関係団体及び関係機関は、市が主催する健康づくり事業に参加するよう声かけたり、健康づくり事業を行政と共に企画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診率向上につながる受診勧奨方法の検討及び体制整備を行う。</li> <li>・関わるスタッフが効果的な指導が出来るよう、スキルアップのため積極的に研修を受講する。</li> <li>・疾病ごとに、個別及び集団で疾病ごとのハイリスクアプローチを行い重症化予防を図る。</li> <li>・市民全体の健康意識向上には、ポピュレーションアプローチにより広く市民に健康情報の周知啓発を図る。</li> </ul>

**4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。**

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(~R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進計画によるアンケート結果により全年齢で、運動には積極的に取り組んでいないという回答が多い。そのため今後はますます、生活習慣病の増加が見込まれることや状態が悪化することが考えられる。</li> <li>・40～50歳代の健診受診率が最も低く、この年代で重大な疾患に罹患すると困窮に繋がることが考えられる。</li> <li>・成長戦略実行計画においては、生活習慣病に占める医療費の割合が多いことから、今後は重症化予防に軸をおいた取り組みが強化される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進計画によるアンケート結果では、食育に関する学習会に参加したいなど食に関する教室のニーズが高い。また、健康のために気を付けていることの中では、80%くらいが食事に気を付けている。食事の意識が高い反面、ウォーキングを含めた運動習慣のある人の割合が30%程度で、どの年代でも低くなっている。</li> <li>・健診については、血液検査項目を増やして欲しいなどの健診内容の充実を希望している。特に高齢になって人間ドック志向が高い。</li> </ul>

**5 予算等の推移**

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	24	23	22		
関連事業予算額(単位:千円)	545,803	540,700	633,838		
(予 算 額 の 内 訳)	国庫支出金	679	614	3,881	
	県支出金	7,405	7,251	3,756	
	地方債	0	0	0	
	その他	13,026	13,385	15,767	
	一般財源	524,693	519,450	610,434	

(1) 目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、指標が目標を下回っているが、R元年度と同等な状況。
(2) 時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		指標①②④についてはR元からR2の指標は微増したが、新型コロナウイルス感染症の影響がR2からR3の指標は低下してしまった。また③は悪化している。
(3) 他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		指標①については、厚生労働省の実施した調査では同程度の状況。②については、県内の市では2番目に高い受診率だが、新型コロナウイルス感染の影響で、県内ほとんどの市町村が受診割合が減っている。指標③については、増加してしまったが、県及び中北保健所管内市町ではすべて同様な割合で増加している。成果指標④は、本市の独自事業であるため比較できない。総合的に見て他市町とも同程度の状況であると判断した。

7 基本計画期間における施策方針

(1) 施策の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康に関する正しい知識を広く周知し、健康意識を高めて健康的な生活につながるよう支援する。</li> <li>健康診査を受けることで、自身の健康課題に気づき、適切な健康行動がとれるように支援する。</li> </ul>

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R4年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R5年度)の方針

基本事業	今年度(R4)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R5)の方針
1 健康意識の向上	【取組み】 ・第3次健康増進計画及び第2次食育推進計画の周知を図る。 ・健康リーグのわくわくウォークを通じて、健康づくりの意識高揚を図る。 ・健診受診後の生活習慣病予備軍、及び重症化予備軍に対しての集団又は個別指導を強化する。 【課題】 ・40～50代男性の健康事業(健康診査、健康教室など)への参加が低迷している。 ・今年度より後期高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けた取組みが開始されたが、後期・介護・健康増進課の連携が課題。	・健康わくわくウォークを継続し、健康意識の普及を図る。 ・健康リーグ事業を市内企業に周知を図り、企業としても健康づくりに関与できる仕組みを構築する。 ・後期高齢者を対象とした健診メニューの充実を図る。
2 健康診査受診の奨励	【取組み】 ・受診率向上に向けて市内医療機関及び薬剤師会と連携を図る。 ・健診受診率が低い40～50代男性に対して健診の勧奨をしている。今までは、全くの未受診者に勧奨していたところを、過去3年間に一度でも受診した者に対しての勧奨に変更したところ一定の成果がみられた。 【課題】 ・40～50代男性の健康事業(健康診査、健康教室など)への参加が低迷しているため、健診勧奨を集中して行っているがなかなか受診に繋がらない。	・人間ドックの申し込み時期を前倒しして、予約しやすい体制を整え、受診率向上につなげる。 ・特に課題となっている40～50代男性については、重点対象を決めた勧奨についての検証を行っていく。
3		
4		
5		